

風見橋



橋げたには東軍「役者」と逆さになった西軍「達摩」のそれぞれの目元部分のみが大きく描かれている。これは、東軍役者組の大風が西白根の堤防に寄せて場がり、西軍達摩組の大風が上空から役者組のかぶり、両軍の風網が絡む様子を大胆に描いたもの。そんな達摩組の力強い眼光をよそに、つぶらな瞳で中ノ口川を眺めるレルヒさん。

洪水をとめた米俵



昭和三十六（一九六二）年八月五日の豪雨により、午後六時三十分ごろから旧富月橋付近で越水し、午後六時四十分には濁流が市街地に流れ込んだ。不足した土のうの代わりに政府米倉庫から米俵を運び出すことを関係機関に要請したが、了解が得られないまま、翌六日未明に二回にわたり、政府米倉庫二か所から米俵四三九俵を運び、この周辺に積んだ。これにより白根のまちは大水害から救われた。これを米俵事件という。一見無表情なレルヒさんも、その米俵の重さに震えていた。

旧白根配水塔



昭和八（一九三三）年三月に竣工。配水塔は、鉄筋コンクリート造で内部は四階建、上部に一〇〇立方メートルを貯水するタンクが設置されている。昭和四十八（一九七三）年に上水道施設としての役目を終えたが、その後も白根大火からの復興を象徴する地域のランドマークとなっている。平成三十（二〇一八）年五月十日に国の登録有形文化財になった。そんな配水塔にそつと寄り添うレルヒさんは、自分より高い配水塔に嫉妬心を抱いている。

風合戦用マンホール（西）



このマンホール蓋は、風見橋欄干と同じデザインで、東・役者組、西・達摩組であり、真ん中には中ノ口川と絡み合った風網が描かれている。東側でのこともあり、警戒しながら給柄をのぞき込むレルヒさん。このマンホールのデザインを気に入ったようだ。



学校小路



白根小学校へと続くこの道を「学校小路」という。後ろに写っている緑の屋根の建物が白根小学校の体育館。そんな小路で下校中、振り向くと、ランドセルを手に嬉しそうにレルヒさんがそこにいた。一緒に帰りたいらしい。

野澤吉太郎の蔵（2階）



大正十三（一九二四）年から二十二年間白根町長を務めた野澤吉太郎が約百年前に建てた蔵で、当時は白根銀行の帳簿や蒸気船白根丸の船具などを保管していた。五十年前蔵の周囲十軒が焼け出される火災があったが、これを再建。住まいとして利用されていた。たくさん歴史を物語るこの蔵の家で、背筋が伸びるレルヒさん。

白根庭園



純日本式の静かな池泉式庭園。つつじの咲くころや雪景色のころが素晴らしい。個人の庭園であったが、白根市が寄贈を受けた。国の登録有形文化財の旧白根配水塔と隣接して、レルヒさんを含め、市民の憩いの場となっている。



割烹金長



白根の歴史的建造物。創業は明治中頃。風情のある昔ながらの建物で、白根大火後、創業以来の材料を使って再建され、中二階の座敷と天井に猫足の装飾を有する大広間は、特に格調高い造りとなっている。この桜町周辺には割烹が多く立地していた。その格調高さに、恐る恐る入ってみるレルヒさん。



白根紙鳶合戦見聞記



白根大風合戦について記した最古の文献資料。塚田家が所蔵する。弘化四（一八四七）年に白根の星井家に滞在した芙蓉山人（不詳）が、同家の依頼により、当時の風合戦の様子を見聞し、幅三十cm、長さ六・三mの和紙に書き綴ったもの。レルヒさんが生まれる前の文献。いくら読んでもレルヒさんのことは書いていない。

切妻屋根の並ぶ歴史的な町屋群



白根商店街には昭和初期以前に建築された多くの町屋が残っていて、特にこの魚町には「切妻屋根」で「妻入り」の町屋が並び、新潟県内有数の歴史的な町並みである。庇や窓枠も様々な意匠を凝らし、一軒一軒違いを際立たせている。一の町、五六の町、魚町、能登エリアに、こうした町屋が多く残っている。身長二・七mのレルヒさんは、雁木を通るのも一苦労。

凧合戦会場



凧合戦期間中（六月初旬）は観覧席となる中ノ口川西側の護岸階段で昔を想うレルヒさん。

その昔、凧合戦を見て感動したレルヒ少佐は、優勝旗を寄贈。これをきっかけに凧合戦協会が発足し、今の優勝ルーができたと言われている。

振り売り



白根には、野菜や果物などをリアカーに乗せて売り歩く「振り売り」の方々がいて人気だ。リアカーの操縦は想像以上に難しく、レルヒさんは、とうとう疲れて立ち止まってしまった。

しろね大凧タウンガイド



白根大凧合戦や凧合戦に合わせた白根のまちのしかけ、県内でも有数とされる歴史的な白根の町屋などを案内してくれるまち歩きガイド。しろね大凧タウンガイドの取り組みにより、現在まち歩きスポット四十二か所に案内看板が設置されている。白根のまちには欠かせない存在。

ユニフォームはレルヒさんと同じ黄色。仲間が増えてすぐくうれしそうなレルヒさん。早速次のまち歩き企画の作戦会議中。

凧網を守る青い横棒



東軍の凧組は合戦にならなかつた大凧をこの場所以降ろす。この手すりのような横棒は、大凧や凧網、鼻緒がコンクリート製の堤防に触れて傷めないための設備で、世界でもここしかない。レルヒさんが擦れても安全なのだ。

トロッコ小路



この小路には、醤油の醸造場（ヤマキチ醤油）から中ノ口川まで、手押しでトロッコ用のレールが敷かれていた。トロッコで船から大豆等の原料を醸造場に運び、醤油や味噌を船に積んだことからこの名がつけられたらしい。写真は、トロッコに乗っている気分になっているレルヒさん。スキー以外の乗り物に興奮している。

※現在は、ヤマキチ醤油は廃業し、跡地にはリオンドール白根店が建っている。

凧合戦用マンホール（東）



凧合戦期間中、このマンホールに支柱を立て置き、大凧が合戦となった際に相手に凧網を引き取れないよう巻きつけて使う。西軍西白根側にも同様に設置されている。世界に二か所しかないマンホールである。マンホールに近寄ったレルヒさんは、不運にもその形状から支柱と間違えられ、法被を着た凧組の男たちに凧網を巻かれてしまった。



野澤吉太郎の蔵（1階）



大正十三（一九二四）年から二十二年間白根町長を務めた野澤吉太郎が約百年前に建てた蔵で、当時は白根銀行の帳簿や蒸気船白根丸の船具などを保管していた。百五十年前蔵の周囲十軒が焼け出される火災があったが、これを再建。住まいとして利用されていた。たくさんの歴史を物語るこの蔵の家で、レルヒさんも物思いにふける。

電鉄線路敷と枕木柵の名残り



かつて、西白根には新潟交通電車線が通っていたが、平成十一（一九九九）年に廃線となった。現在は、線路敷と道路を隔てていた枕木柵が残存している。レルヒさんは、そんな枕木に電鉄の名残りを感じ、車掌さん風の格好で熱い想いを伝えようとしている。



ダンジロウ小路



町屋通りの風情を残す黒壁の小路。旅芸人の団十郎がこの地に住み着き、その姿にあらがれた町の人が小路にダンジロウの名をつけたという。白根の人気の写真スポットで格好つけてみるレルヒさん。



通らん小路



傘をさしては通れないほど狭いことが、この小路の由来となっている（諸説あり）。和傘をさすレルヒさん、これは確かに通れない。でも、ガラスに映るレルヒさんほどこが嬉しそう。青い傘が気に入ったようだ。

